

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	教育学研究科
大項目	9 教育研究等環境 (研究科)
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント(TA)・リサーチ・アシスタント(RA)・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 施設・設備の整備については、完成年度以降の教育学部再編計画に併せた整備計画を2012年度までに立案する。	→「将来ビジョン委員会の開催回数と進捗状況」	B	B	B	C	B
2. 研究倫理に関する学内諸規程の周知を徹底する。	→「研究科委員会などを通して周知徹底の回数」	B	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 研究科会議での了承のもと、大学院棟にて大学院生が使用するためのPCの買い替えを行った。また、共同研究室については、会議室としてさまざまな活動で使用できるように仕様を変更した。これにより、さらに少人数での演習型の授業が行いやすくなった。また、大学院生のための控室を整備し、個人ロッカーや作業台、書架、電話などを置いて学生がより使用しやすい環境を整えた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 大学院生の研究環境が向上し、帰属意識が高まり、学生間の交流の増加がみられた。また、授業での議論がより活発になり、授業効果が高まった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 大学院生の研究分野で用いられる方法論に照らして、必要な施設の仕様変更や設備の拡充を検討する。	☆
		その他	☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 関西学院大学として設置している研究倫理規準について、研究科委員会にて確認を行った。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 年度初めに研究活動の倫理、試資料の取得・利用および研究成果発表に関する不正行為の禁止、研究費の適正な取り扱いについて、研究倫理規準の確認を行ったことで、問題発生防止に効果があった。大学院生全体に対する研究倫理規準の周知活動は不十分であった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 教職員については、今後も周知を徹底し、不正行為などを防止する。大学院生については、規準周知の機会を計画し、順守の徹底をはかる。	☆
		その他	☆
備考			☆